



TITLE:

静脩 Vol. 32 No. 1 (1995.6) [全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 32 No. 1 (1995.6) [全文]. 静脩 1995, 32(1)

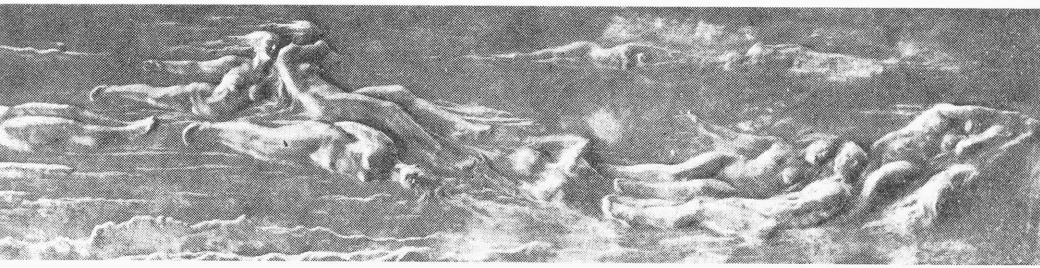
ISSUE DATE:

1995-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/66017>

RIGHT:



静脩

1995年6月

The Kyoto University Library Bulletin

Vol. 32, No.1

京都大学附属図書館の現状

附属図書館長

長 尾 真

要旨

- ・ 学生用の図書の充実と情報活用に関する教育
- ・ 60余りの部局図書館・室とのスムーズな協力
- ・ 図書館のよりよい情報化
- ・ 開かれた図書館への努力

京都大学には附属図書館のほかに60余りの部局図書館・図書室があり、これらが有機的に連携して京都大学図書館を構成しています。その中で附属図書館の現状と解決すべき課題などについて述べ、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

1 転換期における大学図書館の使命

情報技術の発展によって図書館は大きな転換期に来ております。図書館は人類の過去の知識の宝庫であるとともに、最新の情報をも提供できる所であればなりません。「知識は万人のものである」と言われているように、図書館はあらゆる種類の知識・情報の提供のためにできるかぎりの努力をすることが要請されており、その期待に答えねばならないと存じます。

大学図書館はまず、学生のための学習図書館でなければなりません。学習のための基本図書を常に充実し、読書・学習のための十分な席を提供することが必要です。また図書館の活用法、

学術情報の利用法についての知識を学生に与えることが必要です。日本の大学ではこういったことについての講義がなく、学生は報告書などを書く時にどのようにして資料や参考図書を見つけ出し、活用するかについての訓練を受けていないのは大きな問題です。情報図書館学、情報探索学といった科目を設け、学生全員にその能力を持たせることは、語学教育、情報処理教育とともに必須のことです。

大学図書館はまた、研究者のための図書館でなければなりません。研究者が必要とする図書・資料・情報を必要な時にすぐ提供できることが必要で、自分の図書館にない場合には、どこにそれがあるかを探し、それを貸借したり、コピーを入手するということをしなければなりません。限られた予算の中では必要な図書・雑誌を全て1つの図書館で購入することは不可能ですから、多くの大学が相互に協力しあい、重複した雑誌・図書の購入を避け、図書館間の相互貸借、コピーサービスなどを迅速に行う体制を作らねばなりません。

学問分野によっては、図書や資料はまさに精密実験装置にあたる大切なものであり、それぞれの研究者に所属するものという意識が濃厚です。しかし今日、多くの入手しにくいデータや実験装置は共有という形で国際的にも解放されており、必要な人は使うことができるようにな

って来ております。このようにしてできるだけフェアな条件のもとに切磋琢磨が行われ、これが学問研究の発展に大きく貢献しております。

図書館はそういった意味からも開かれたものであるべきであり、その方向の努力をすることは図書館員として持つべき当然の倫理と考えます。その第一歩としてOPAC(Online Public Access Catalog)と呼ばれている図書カードの電子化、データベース化が行われております。こうして学内はもとより全国の研究者がそれぞれに必要とする図書・資料の所在が分かるようにし、要求に応じて貸与したり、コピーサービスが行われております。British Libraryは何年も前からこれを国際的なレベルで実行に移し、世界の図書館界に大きなインパクトを与えました。京都大学の研究者もこのサービスの恩恵を受けている人は多いのです。

2 京都大学附属図書館の実態

京都大学図書館は全体として約530万冊の図書を持ち、2万7千種の雑誌を所蔵しております。そのうち中央館である附属図書館は図書75万冊をもってありますが、図書購入費は年間にたったの3千冊相当であり、寄贈書等を入れて年間約6千冊の受け入れというまことに寒々とした状況にあります。また、工学部化学系の雑誌、理工学系外国雑誌センターの雑誌をのぞけば、附属図書館固有の購入雑誌はたったの212種類であります。京都大学全体で何千科目か開講されている講義に関連した学生用の学習図書、参考図書類の充実はずいとも行わねばならないものですが、全く不十分といわざるをえません。こういった危機的状況に対して平成6年度は総長特別経費の一部を学生用図書購入費として配分していただき平成6年度の購入図書は4,600冊となりました。しかし、今日国内で出版されている書籍は年間約4万点といわれており、学術論文の数も年々増加の一途をたどっています。それにもかかわらず図書館予算はここ数年間ほとんど増えていないために、図書・雑誌の単価の上昇に反比例して購入図書の数が減って来てい

るという深刻な事態となって来ているのです。

附属図書館には現在870席の座席があつて読書・学習のために利用されていますが、1日当たり平均2,500人の入館者のためには不十分であります。開館時間は平日9時から21時までで、土曜日にも開館して来ましたが、関係各部門の方々のご理解とご協力によって平成7年5月からは日曜日にも開館することが出来るようになり大変うれしく思っております。これまで土曜日は平均1千人の入館者がありましたので、日曜日の利用者も相当な数となると思われます。

平成4年4月から学術情報センターによる図書館相互協力サービスが本学でも実施され、何がどこにあるかが全国的に分かるようになりましたので、全国の大学相互間での図書の相互利用、コピーサービスが急増しております。附属図書館における平成3年度の文献複写の受付件数は1万件でしたが、平成5年度には1万5千件となり、年率20%程度の急成長であります。コピー枚数は平成5年度には13万枚となりました。また本学研究者の学外雑誌の利用は平成元年から平成5年の間に2倍(平成5年度8,091件)にも増えております。このようなサービスは利用者にとっては非常に便利なものでありますが、年々人員削減をされている図書館側にとっては大変な負担となる問題であります。特に、学外からの依頼は多くが附属図書館に来ますが、図書そのものは部局図書館にあるという場合が大変です。部局図書館で直接外部からの依頼を受けて対処していただいているところも多いのですが、そうでない部局図書館もまた多く、その場合には附属図書館から部局図書館に本を借りに行つて、コピーした後また返本に行かねばならないという手間がかかるわけであります。こういった仕事は1日平均して数十件あります。

このような学内・学外からの図書・資料の相互利用の依頼はますます増えて行きますが、学内の全ての図書館・図書室相互間、さらには他大学の図書館ともお互いに手を握りあつて学生や研究者の要求に答えて行くことが必要です。こうした図書館側の努力が学術の発展につながってゆくことですから、そのサービスレベルを

常に向上させるようにしなければなりません。ところがOPACによって検索できる図書は本学の場合、まだ45万点に過ぎず、あと315万点の図書カードをコンピュータに入力しなければなりません。部局図書館（室）でもこの図書カードの遡及入力に努力をしていただいておりますが、前途道遠しの感をまぬがれません。しかしこれを完成しなければ利用者にほんとうに良いサービスをすることはできないのですから、10年かかってカード全部の入力を行う必要があると考えております。

図書館が参考業務といって、利用者の質問に対して答えたり助言したりするサービスをしていることを知っている人は少ないのではないのでしょうか。大いに利用していただきたいのです。そうはいっても参考業務も年々増加して来ております。特に文献調査の依頼は平成6年度には約1万1千件に達しており、毎年20%程度の増加となっております。このうち学外からのものが約半数あります。参考調査業務は質問によっては1件の処理に非常に時間のかかるものがありますので、1日平均50件といっても大変な人手をとる仕事なのです。しかしこの業務が図書館司書にとって最もやりがいのある仕事でありますので、サービスの質を向上すべく常に努力をしているわけであります。

館長紹介

昭和11年10月4日
生まれ・工学部教授
京都大学工学博士
電気通信工学講座
言語メディア工学
主な著書…
「電子図書館」岩波
1994、「人工知能と
人間」岩波 1992、
「岩波情報科学辞典」
岩波 1990、「知識と
推論」岩波 1988、
ほか多数



3 将来へ向けての努力

京都大学図書館としてやらなければならないことは多くあります。学生用の図書を充実すること、図書カードのコンピュータへの遡及入力をする、相互貸借のシステムを効率の良いものとするなどとの必要性は既に述べましたが、これら以外にも、学生に渡す図書館利用証の問題もあります。図書館利用証は附属図書館と総合人間学部で共通に使えるものと、各学部各学科の図書館・図書室で使うものとが違って、発行する側も面倒ですが、学生は常に学生証と合わせて3つのカードを携帯しなければならないというわけです。他学部・他学科の図書を利用するには特別の利用証を所属する学部・学科の図書室から発行してもらわねばならないという厄介なこともあります。附属図書館固有の問題は他にも沢山ありますが、これはまたいずれ述べさせていただくことに致しましょう。

限られた数の図書館職員で年々増大する情報量に対処し、またより急激な比率で増大する図書館の各種利用要求に答えるためには、本の自動貸出機の導入をはじめとし、出来るだけ強力で使いやすく仕事の効率の上がる最新の図書館情報システムに現在のシステムを入れ換える必要があります。そしてコンピュータ・ネットワークを通じて世界中の図書館、データベースから必要な情報を入手できるようにしなければなりません。また京都大学が持っている情報を世界に向かって発信していく発信型の図書館機能も持つようにする必要があります。

さらにこれから急速に発展して行くと考えられている電子出版にも対応できる電子図書館の準備もして行かねばなりません。取り組むべき課題は多いのです。

以上述べて来ましたが多くの問題は単に附属図書館固有の問題ではなく、京都大学の60余りの図書館群全体の問題であり、それは即ち京都大学の研究者・学生・職員全員の問題でもあるわけです。そこでこれらの問題を詳しく検討し、京都大学附属図書館の将来像を出来るだけ明確

化するために図書館商議会の中に専門委員会を設置していただき、さっそく具体的な検討に入っております。いずれにしても、この問題は京都大学の全ての部局の合意と協力がなければ解決できないものであります。

京都大学附属図書館の現状をご理解いただく

とともに、ぜひとも積極的なご意見をいただき、理想的な図書館に少しでも近づいて行くべく努力致す所存でありますので、ご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

附属図書館長就任にあたって。

平成 7 年 5 月

土・日のサービス拡大について

附属図書館では平成 7 年度より、土曜日のサービス拡大と日曜開館を開始しました。学内外からの要望にこたえるべく検討をすすめていたもので、職員出勤による土曜日のサービス拡大は 4 月より、日曜開館は 5 月より実施しています。

アナウンスの期間も少ないままの実施でしたが、土曜日の書庫内検索や利用証の受付交付も好評で、卒業生や学外の方からの問い合わせや来館も増加しています。(来館実績は右のとおり)なお、夏季休業中の土・日および祝日は、休館となります。定例月末休館日はその都度、お知らせ致します。

(土曜日のサービス内容)

- ①地下書庫入庫検索・地下書庫内資料の貸出(特殊資料を除く)
- ②OPAC/TSS の検索

- ③図書館利用証の申請受付交付(昼休みは休止)
- ④学外者の受付 (")
- ⑤クイックレファレンス (")

(日曜日のサービス内容)

- ①開架図書・雑誌の貸出・閲覧のみ(特殊資料は除く)
- ②校費カードによるコピーサービスは可

| 土 曜 日 | | 日 曜 日 | |
|---------|-------|---------|------|
| 4 月 8 日 | 464人 | _____ | |
| 15日 | 887人 | | |
| 22日 | 912人 | | |
| 5 月 6 日 | 1,054 | 5 月 7 日 | 505人 |
| 13日 | 1,299 | 14日 | 384 |
| 20日 | 1,176 | 21日 | 352 |
| 27日 | 1,136 | 28日 | 508 |

<開 館 ・ 貸 出 ・ 入 庫 時 間>

| | 開館時間 | 貸出・返却時間 | 地下書庫の検索 |
|-------------------------------|-------------|-------------|--------------------------|
| 通 常 | | | |
| 月～金 | 9：00～21：00 | 9：30～19：00 | 9：00～12：00, 13：00～19：00 |
| 土 | 10：00～17：00 | 10：30～15：00 | 10：00～12：00, 13：00～15：00 |
| 日 | 10：00～17：00 | 10：30～15：00 | _____ |
| 冬期短縮開館中 (1/6～10) | | | |
| 月～金 | 9：00～17：00 | 9：30～16：00 | 9：00～12：00, 13：00～16：00 |
| 土 | 10：00～17：00 | 10：30～15：00 | 10：00～12：00, 13：00～15：00 |
| 日 | 10：00～17：00 | 10：30～15：00 | _____ |
| 夏期短縮開館中 (7/21～8/4, 8/16～9/10) | | | |
| 月～金 | 9：00～17：00 | 9：30～16：00 | 9：00～12：00, 13：00～16：00 |
| 土・日 | 休館 | _____ | _____ |

CD-ROM サーバの運用開始について

附属図書館と医学図書館では、平成7年5月15日より、CD-ROM サーバの運用を開始しました。原則として24時間運用します。今年度は、1年目ということもあり、提供ソフトはMEDLINE (1966年以降) だけですし、利用範囲も吉田地区（西部、南部、北部を含む）に限定されています。今後、利用状況と利用者の要望とをふまえて、サービスの拡大をしていく予定ですので、大いに利用してください。

1 利用方法について

CD-ROM サーバのサービスを利用する方法は、3種類あります。ひとつは、附属図書館及び医学図書館に設置されている専用クライアントの利用です。現在、各館に2台ずつ設置されていますが、医学図書館には、近日中にもう1台追加して設置する予定です。ここでは、Windows版のクライアントが利用できます。

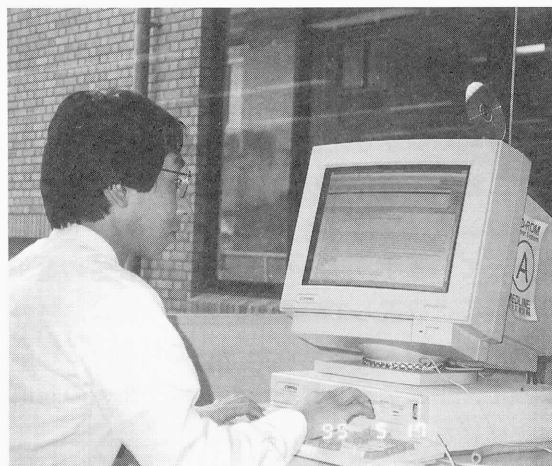
2番目は、クライアントソフトを自分のマシンにインストールして利用する方法です。このソフトは、さきほどのWindows版の他に、UNIX版とMacintosh版とがあります。それぞれのソフトで、操作方法や使える機能が異なります。

3番目に、telnetで利用する方法があります。クライアントソフトの利用と比較すると、使用できない機能が多いのですが、手軽に利用できます。

なお、附属図書館と医学図書館以外からの利用は、同時アクセスが5名までに限定されています。利用を終了した場合、速やかに接続を切ってください。

2 利用を開始するには

クライアントソフトはKUINSのanon-ymous



開始された CD-ROM サービス

ftp から配布予定です。また、telnet のユーザ ID とパスワードについては、以下の4か所でお知らせします。検索方法等については、a または c で、接続方法及びシステム関連の問い合わせは、b または d で受け付けます。

- a 附属図書館参考調査掛（7番カウンター、075-753-2636, 075-753-2637）
- b 附属図書館システム管理掛
（E-mail kanri@kulib.kyoto-u.ac.jp, 075-753-2646）
- c 医学図書館閲覧掛（075-753-4316）
- d 医学部附属病院医療情報部（075-751-3645）

運用開始後、利用者への連絡（データ更新のためのサーバ停止通知、telnet のパスワード変更等）は、E-mailで行いますので、利用を開始するにあたっては連絡先をa～dのいずれかにお知らせください。

閲覧システムの更新について

附属図書館及び総合人間学部図書館では、これまで、オフコンによる閲覧システムを使用して、貸出・返却・予約等の業務を行ってきました。しかしながら、導入後すでに10年以上が経

過し、新規サービスの展開に対応できないなどの問題が起きてきました。このため、平成7年4月から新しい閲覧システムに更新しました。ここでは、新システムの構成・機能等について

紹介します。

1 システムの構成

更新後導入されたシステムは、「ILIS / X-WR」というものです。UNIX ベースのシステムで、サーバ／クライアント型の構成になっています。附属図書館及び総合人間学部図書館の閲覧カウンターには、各2台のクライアントが設置されています。サーバは、附属図書館の電子計算機室に設置しています。サーバには、無停電装置及び無人運転装置がついており、これによって、平成7年5月からの日曜開館への対応が可能になりました。

2 機能の特徴

UNIX のマルチタスクの機能を利用して、画面上に貸出と返却の二つの画面を表示しておき、短時間に切り替えて運用できます。このため、貸出・返却のどちらかの窓口を利用者が集中し

た場合に、他方の窓口を切り替えて対応できます。また、これまでのシステムでは、附属は附属だけ、総合人間学部は総合人間学部だけの貸出状況しか、参照できませんでしたが、新システムは双方の貸出状況が参照できます。他の図書館で借りている本の返却期限日も、ひとつのカウンターで参照できます。

3 今後の展開

新システムは、KUINS 上に展開されています。このため、KUINS 上の他のシステムと連携することが可能です。例えば、附属図書館の書誌所蔵 DB から抽出したデータを、ftp によって必要とするシステムに転送することができます。また、附属図書館と総合人間学部だけでなく、他の部局への展開も可能です。

さらに、新システムの OPAC は、インターネットからの利用が可能です。運用環境の整備ができしだい、公開する予定です。

新年度の利用証交付状況

附属図書館では、平成7年度学部生・修士課程・博士課程の新入生に対し4月12日(水)から

28日(金)にかけて、集中的に利用証を交付しました。学部別の交付状況は次のとおりです。

(学部生)

| | 総人 | 文 | 教育 | 法 | 経済 | 理 | 医 | 薬 | 工 | 農 | 医短 | 合 計 |
|------|------|------|-----|------|------|------|----|------|------|------|------|-------|
| 交付人数 | 111 | 184 | 63 | 355 | 205 | 287 | 88 | 71 | 840 | 238 | 113 | 2,555 |
| 交付率% | 83.5 | 82.1 | 100 | 90.3 | 86.9 | 88.3 | 88 | 82.6 | 79.2 | 73.2 | 70.6 | 82.3 |

(修 士)

| | 人環 | 文 | 教育 | 法 | 経済 | 理 | 医 | 薬 | 工 | 農 | 医短 | 合 計 |
|------|----|------|------|------|------|------|---|------|------|------|----|-------|
| 交付人数 | 91 | 88 | 28 | 64 | 51 | 152 | — | 38 | 421 | 68 | — | 1,001 |
| 交付率% | 74 | 93.6 | 84.8 | 87.7 | 87.9 | 56.7 | — | 62.3 | 55.5 | 32.1 | — | 59.6 |

(博 士)

| | 人環 | 文 | 教育 | 法 | 経済 | 理 | 医 | 薬 | 工 | 農 | 医短 | 合 計 |
|------|----|------|------|------|----|------|------|------|------|------|----|------|
| 交付人数 | 44 | 44 | 7 | 11 | 22 | 46 | 19 | 10 | 63 | 21 | — | 287 |
| 交付率% | 71 | 86.3 | 63.6 | 61.1 | 88 | 35.7 | 13.9 | 55.6 | 67.7 | 29.2 | — | 46.6 |

薬学部院生に関しては薬学部図書室で、医療技術短期大学部学部生に関しては、同図書室での交付を行いました。なお、それ以降は附属図書館にて交付しています。全新入生の方にはす

でに利用証を用意しています。申請をしていたら、その場で交付することができます。

新入生以外の方もどうぞお申し込み下さい。

附属図書館利用オリエンテーションを開催

今年もたくさんの新入生をキャンパスに迎え、附属図書館では、オリエンテーションを開催しました。

（第一部）附属図書館の利用案内

- ・ 4月12日(水)～14日(金)の3日間
- ・ 12:10～12:50と15:00～15:40の2回ずつ
- ・ 附属図書館3階 AVホール
- ・ 図書館案内ビデオの放映と利用方法の説明
- ・ 参加者数:549名
- ・ アンケート回答数:342名

（第二部）OPAC / TSS の説明と実習

- ・ 4月18日(火)～20日(木)の3日間
- ・ 12:10～12:40と15:00～15:30の2回ずつ
- ・ 附属図書館1階 カウンター前



OPAC 講習会

- ・ 参加者数:475名

今年度のオリエンテーションは、第一部・第二部とも過去3年間の開催の中で最も多くの方に参加していただきました。これは、第一部の日程を利用証の交付と同時に行ったこと、その1回目の開催時間を授業のないお昼休みにしたこと、第二部もこれまでの1日1回から2回に増やしたこと等によるものと思われます。

参加していただいたのは、新入生がほとんどでしたが、他に院生や2回生以上の方やその他の方も参加しておられました。これまでに図書館を使った経験のある方もあり、アンケートでは、以下のような図書館に対するご意見やご要望をいただきました。

- ・ 開架図書を増やしてほしい
- ・ 学部生でも書庫に入れてほしい
- ・ 貸出冊数を増やしてほしい
- ・ 小説類をもっと多く
- ・ 旧分類と新分類を統一してほしい
- ・ カード目録のOPAC化
- ・ プリントを自由に
- ・ 自転車置き場を何とかしてほしい
- ・ 他大学図書館を自由に利用出来るように
- ・ 語学テープ等を貸し出してほしい
- ・ 個室ブースをふやしてほしい
- ・ コピー料金を1枚10円に

さらに、今年4月から行っている全館禁煙についての賛同もいただいています。

第二部については、今年4月より図書館内のOPACシステムを一部変更したところでもあり、新入生以外の方で参加された方も多かったようです。3日間6回の開催で、今年は昨年との2.5倍の方が参加されました。講習の内容は、OPACの検索範囲・カード目録との関係等の概要を説明した後、カウンター前の8台の端末を使って、職員による使用方法の説明を聞きながら、参加者が実際に例題を検索し、実習補助者が横から口添えして指導していく方法で行いました。始めはタイトルキーワードで絞り込み検索をかけていく例、次に雑誌名から、著者名からそれぞれ検索していく例を出して実習してもらいました。日本語入力の方法等で初心者にわかりにくい点も、パネルや補助者の説明で実際にキーボードをさわってみて理解を早めるのに役立ったかと思います。ただ、多くの参加者の中で一部の方しか実際に端末をさわって演習しただけなかったのは、機器数の制限上やむをえなかったこととはいえ、次回からは何らかの改善方法を考えていきたい課題です。

今後、アンケートにいただいたご意見を参考にして、より多くの方に親しみやすい図書館へのアプローチとなれるように、オリエンテーションの開催方法・時期・内容等を工夫していきたいと考えています。

図書館のうごき(1)

商議会専門委員会の開催

第1回

平成7年4月18日 10:00~12:00

第2回

平成7年5月9日 16:00~18:00

第3回

平成7年6月5日 10:00~12:30

平成7年度

第1回部局図書系事務連絡会議開催

平成7年4月25日(火)午後1時30分より附属図書館大会議室で開催されました。

議題

- 1) 附属図書館長の挨拶
- 2) 附属図書館商議会専門委員会の発足について
- 3) 土・日開館について
- 4) 当面の諸問題
- 5) その他

この度の会議には、附属図書館としては初めて、関係部局の事務長(総務課長)にも御出席いただきました。今後にも必要に応じ開催される予定です。

次期リプレース検討に着手

附属図書館では次期システム検討委員会を発足させました。

第1回 平成7年4月28日

第2回 平成7年5月8日

第3回 平成7年5月26日

委員会では現在の業務の見直しと、次期リプレースについての要望(案)の作成をすすめており、今後部局図書室の要望を聞いて更に内容を充実させてゆく予定となっています。

平成8年度歳出概算要求概要

附属図書館の要求概要は次のとおりです。

- 1) 企画渉外担当者定員1名
- 2) 次期システムレンタル料の増額
- 3) 利用者サービス管理システム
- 4) 電子図書館基本システム
 - イ) 高速館内 LAN
 - ロ) マルチメディア装置
- 5) 電動集密書架
- 6) 指定図書費
- 7) 参考図書費
- 8) 学生図書費

京都大学同和問題文献・資料コーナー 図書目録(1974~1994)を発行

この目録は、昭和49年~平成6年度に購入及び寄贈を受けた同和問題関係の文献・資料を収録したもので隔年発行しています。

OPAC / TSS 利用マニュアル第2版を発行

本誌31巻3号でも予告しておりましたが、京都大学の蔵書検索システム OPAC/TSS(Online Public Access Catalog/Time Sharing System)の User's Manual 第2版が完成しました。

今回の改訂版では、従来からの「コマンド型」検索方式に加えての「誘導型(附属図書館1階の端末で提供中の方式)」による検索方法についてもご紹介しています。また新たに、telnet による internet からの接続方法についての項目も設けました。

附属図書館⑦カウンター(情報サービス課参考調査掛)にて、利用 ID 取得者に配付しておりますので、希望者はお申し出ください。また、これから利用を申請される方もこちらまでどうぞ。

本年5月より、この OPAC/TSS は土曜日も利用できるようになりました。月曜日から金曜日までは午前9時から午後7時まで、土曜日は午前10時から午後3時まで検索できます。

図書館のうごき(2)

平成7年度 目録担当職員システム研修会

学術情報センター目録システムに習熟するための基本的事項の説明と実習を行うもので、対象者は学内で図書や雑誌の目録作成業務を担当する職員のうち、目録作成業務に初めて従事する者を対象としています。

開催日 7月3日(月)～7日(金)

募集人員 10名

全国共同利用図書資料 (大型コレクション)のご案内

このたび、平成6年度全国共同利用資料(大型コレクション)について利用案内がありましたので、お知らせいたします。

・一橋大学附属図書館

「国際法研究文献コレクション全巻(マイクロフィッシュ版)(International law)」

・愛媛大学附属図書館

「シェイクスピアとその時代(マイクロフィッシュ版)(The Bibliotheca Shakespeariana)」

・鳥取大学附属図書館

「世界センサス集成, アジア(マイクロフィルム版)(International Population Census Publications, Asia : Years 1945-1967, Post 1967)」

・宇都宮大学附属図書館

「1990年世界農林業センサス『農業集落カード』(マイクロフィッシュ版)全都道府県一式」

・京都大学附属図書館

蘭学関係貴重原書27点

附属図書館 WWW サーバの立ち上げ

インターネット上に WWW のサーバを公開し

ている大学図書館関連機関は学術情報センターをはじめとして30程度あり、すでに学内でもサーバの立ち上げが始まっています。図書館サービスの窓口として、学内外への情報発信基地としても、附属図書館の WWW サーバの早期開設が期待されているところです。一方、附属図書館においてはすでに次期システムの検討が始まっており、遅くとも平成10年1月には、総合的な電子図書館が姿を現すことになっておりそこには、当然 WWW サーバも組み込まれることとなります。そこで次期システムへの移行までの期間に限定して、WWW サーバを実験的に立ち上げることにし準備を始めました。

提供する情報は次のものを予定しています。

- ・電子版維新展
- ・学内図書館・室案内
- ・電子版 LSN (Library Service News)
- ・電子版静脩

夏季休業中の利用について

☆夏の間は貸出期間が長くなります

開架図書 7月5日(水)～9月3日(日)

書庫内図書

6月19日(月)～8月17日(木) (院生・教職員)

7月5日(水)～9月2日(土) (学部学生)

返却日はいずれも9月18日(月)となっています。

夏季休館・時間変更等のお知らせ

☆夏季休業中(7月19日～9月9日)の土曜日・日曜日は休館いたします。

☆図書整理のため、8月5日～15日は休館いたします。

☆7月21日～9月10日は閉館時間が17時ですのでご注意ください。

寄贈図書資料紹介

本学の教官・名誉教授等より、附属図書館へ、寄贈していただいた資料は次のとおりです。
ありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。

(平成7年1月から5月まで、受付順)

書名 / 寄贈者

Российский путь в капитализм и японский путь в посткапитализм /
Онисии Хироси 著
／ 大西 広 (経済学部)

田中喬講演集：人間と建築
／ 前田忠直 (工学部)
／ 伊従 勉 (人間・環境)

中世の英語：覚え書
／ 佐々部英男 (名誉教授)

上山春平著作集
第8巻 空海と最澄
第10巻 日本文明史序説
／ 上山春平 (名誉教授)

Animal Societies : Individuals, Interactions and Organization. edited by Peter J. Jarman & Andrew Rossiter.
／ 京都大学学術出版会

Japanese Grammar : A New Approach. by Gisaburo Kiyose
／ 京都大学学術出版会

日本財政論：数理財政学序説
吉田和男著
／ 京都大学学術出版会

Local Economy and Entrepreneurship in Thailand : A case study of Nakohan Ratchasima. by Yoko Ueda
／ 京都大学学術出版会

世界とところどころ：人と風景
／ 水渡英二 (名誉教授)

近代を問う
第1巻 フランス革命の思想と行動
第2巻 資本主義批判の立場
第3巻 日本の近代と知識人
／ 河野健二 (名誉教授)

先進国の都市緑地化における緑・農地
Farmland Use in Suburban Areas in the Developed Societies
／ 西村博行 (名誉教授)

シェイクスピア「恋人の嘆き」とその周辺
／ 櫻井正一郎 (総合人間)

シェイクスピアにおけるアイロニーと風刺
／ 青木啓治 (名誉教授)

インドネシアの旅：ジャワと火山を訪ねて
／ 尾池和夫 (理学部)

女らしさ・男らしさ：「計画の視点より」
／ 佐佐木綱 (名誉教授)

学校医の落書帳
／ 北村李軒 (保健管理センター)

新時代の宇宙体操のすすめ
／ 万井正人 (名誉教授)

The Comparison between Concepts of Life-breath in East and West: Proceedings of the 15th International Symposium on the Comparative History of Medicine - East and West.
／ 麦谷邦夫 (人文研)

Memoir : Shirahama Oceanographic Towar 35th Anniversary
／ 中村重久 (防災研)

戦前期の在日朝鮮人と参政権
／ 松田利彦 (文学部)

都市と近世社会を考える
／ 朝尾直弘 (名誉教授)

目 次

〈巻頭言〉

- 京都大学附属図書館の現状…………… 1

〈お知らせ〉

- 土・日のサービス拡大について…………… 4
- CD-ROM サーバの運用開始について…………… 5
- 閲覧システムの更新について…………… 5

〈報 告〉

- 新年度の利用証交付状況…………… 6
- 附属図書館利用オリエンテーションを開催… 7

〈図書館の動き〉

- 商議会専門委員会の開催（第1～3回）…………… 8
- 部局図書系事務連絡会議開催第1回…………… 8
- 次期リプレース検討に着手…………… 8
- 平成8年度歳出概算要求概要…………… 8

- 京都大学同和問題文献・資料コーナー

図書目録を発行…………… 8

- OPAC / TSS 利用マニュアル

第2版を発行…………… 8

- 目録担当職員システム研修会…………… 9

- 全国共同利用図書資料のご案内…………… 9

- 附属図書館 WWW サーバの立ち上げ…………… 9

- 夏季休業中の利用について…………… 9

- 夏季休館・時間変更等のお知らせ…………… 9

- 〈寄贈図書資料紹介〉…………… 10

- 図書館カレンダー…………… 11

- 後記…………… 11

- 〈図書館蔵書統計〉…………… 12

図書館カレンダー

| | | | |
|-------------|---|-------------|-----------------------------|
| 6月5日～7月5日 | 夏季休業中の国立六大学附属 図書館の利用申込受付 | 7月19日～9月9日 | 夏季休業 (夏季休業中土曜・日曜日 休館) |
| 6月18日 | 創立記念日(休館) | | |
| 6月19日～8月17日 | 夏季休業中の長期貸出 (書庫内図書：院生・教職員) | 7月21日～9月10日 | 夜間休館 |
| 7月1日～9月9日 | 夏季休業中の国立大学学 生の利用受付 | 8月5日～15日 | 夏季休館(蔵書点検等のため) |
| 7月5日～9月3日 | 夏季休業中の長期貸出 (開架図書：利用対象者全員) (書庫内図書：学生) (～9月2日) | 9月11日 | 夜間開館開始 |
| | | 9月18日 | 夏季休業中の長期貸出返却日 |
| | | 10月 | 展示会 |

後
記

編集委員が若干名交替しました。編集方針は現行方針を踏襲しながら、少しでも読みやすくするために1頁の字数を減らし、字を少し大きくし、又写真を多くする等予算の許される範囲内で色々試行錯誤しながら発行していこうと考えています。ご意見をおよせください。又、今号からUNIXで検索できるようになる予定であります。

(モ)

京都大学附属図書館「静脩」

Vol. 32, No.1 (通巻118号)

発行：1995年6月30日

編集：静脩編集委員会

(責任者 附属図書館事務部長)

発行：京都大学附属図書館

京都市左京区吉田本町

TEL 075-753-2613

平成 6 (1994) 年度蔵書統計

平成 7 (1995) 年 3 月 31 日現在

| 部 局 | 受 入 冊 数 (冊) | | | 蔵 書 冊 数 (冊) | | |
|-----------------|-------------|--------|--------|-------------|-----------|-----------|
| | 和 書 | 洋 書 | 合 計 | 和 書 | 洋 書 | 合 計 |
| 附属図書館 | 5,773 | 1,693 | 7,466 | 504,137 | 254,437 | 758,574 |
| 総合人間学部 | 5,520 | 4,976 | 10,496 | 295,297 | 255,701 | 550,998 |
| 文学部 | 5,188 | 5,291 | 10,479 | 451,628 | 296,531 | 748,159 |
| 教育学部 | 2,112 | 1,456 | 3,568 | 66,701 | 51,800 | 118,501 |
| 法学部 | 4,023 | 5,411 | 9,434 | 228,733 | 308,781 | 537,514 |
| 経済学部 | 3,760 | 3,399 | 7,159 | 205,276 | 200,382 | 405,658 |
| 理学部 | 1,244 | 1,688 | 2,932 | 44,237 | 196,077 | 240,314 |
| 医学部 | 1,294 | 2,088 | 3,382 | 33,386 | 104,489 | 137,875 |
| 医学部附属病院 | 11 | 65 | 76 | 11,754 | 22,602 | 34,356 |
| 薬学部 | 194 | 1,443 | 1,637 | 10,825 | 28,425 | 39,250 |
| 工学部 | 1,852 | 4,594 | 6,446 | 134,046 | 247,434 | 381,480 |
| 農学部 | 1,252 | 1,255 | 20,507 | 161,785 | 138,315 | 300,100 |
| 農学部附属農場 | 0 | 0 | 0 | 586 | 113 | 699 |
| 農学部附属演習林 | 149 | 87 | 236 | 9,651 | 2,803 | 12,454 |
| 科学研究所 | 44 | 728 | 772 | 7,951 | 33,433 | 41,384 |
| 人文科学研究所 | 5,519 | 1,391 | 6,910 | 411,415 | 63,556 | 474,971 |
| 胸部疾患研究所 | 0 | 198 | 198 | 1,611 | 4,745 | 6,356 |
| 原子エネルギー研究所 | 14 | 301 | 315 | 4,758 | 12,550 | 17,308 |
| 木質科学研究所 | 23 | 108 | 131 | 4,925 | 4,746 | 9,671 |
| 食糧科学研究所 | 14 | 210 | 224 | 3,649 | 10,194 | 13,843 |
| 防災研究所 | 56 | 321 | 377 | 7,815 | 24,478 | 32,293 |
| 基礎物理学研究所 | 300 | 3,227 | 3,527 | 7,774 | 67,697 | 75,471 |
| ウイルス研究所 | 1 | 68 | 69 | 484 | 9,648 | 10,132 |
| 経済研究所 | 705 | 815 | 1,520 | 38,101 | 30,960 | 69,061 |
| 数理解析研究所 | 49 | 683 | 732 | 6,181 | 65,737 | 71,918 |
| 原子炉実験所 | 5 | 758 | 763 | 13,742 | 29,877 | 43,619 |
| 霊長類研究所 | 109 | 330 | 439 | 5,334 | 11,167 | 16,501 |
| 東南アジア研究センター | 478 | 2,302 | 2,780 | 16,625 | 56,172 | 72,797 |
| 大型計算機センター | 434 | 486 | 920 | 4,994 | 9,788 | 14,782 |
| ヘリオトロン核融合研究センター | 0 | 158 | 158 | 902 | 2,929 | 3,831 |
| 放射線生物研究センター | 0 | 0 | 0 | 160 | 1,354 | 1,514 |
| 環境保全センター | 29 | 47 | 76 | 568 | 784 | 1,352 |
| 情報処理教育センター | 0 | 2 | 2 | 244 | 514 | 738 |
| 超高層電波研究センター | 0 | 33 | 33 | 454 | 2,382 | 2,836 |
| 生態学研究センター | 48 | 164 | 212 | 1,576 | 4,008 | 5,584 |
| アフリカ地域研究センター | 197 | 512 | 709 | 3,720 | 8,481 | 12,201 |
| 生態医療工学研究センター | 0 | 4 | 4 | 214 | 276 | 490 |
| 医療技術短期大学部 | 470 | 79 | 549 | 22,326 | 5,269 | 27,595 |
| 人間・環境学研究科 | 465 | 672 | 1,137 | 1,992 | 5,903 | 7,895 |
| 経理部 | 0 | 0 | 0 | 558 | 0 | 558 |
| 施設部 | 0 | 0 | 0 | 789 | 69 | 858 |
| 保険診療所 | 0 | 0 | 0 | 506 | 63 | 569 |
| 学生部 | 0 | 0 | 0 | 295 | 166 | 461 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 合計 | 41,332 | 47,043 | 88,375 | 2,727,685 | 2,574,836 | 5,302,521 |

注) 受入冊数には、学内の蔵書移動にともなう増減、学外への蔵書移動、および不用決定にともなう減は含まれておりません。